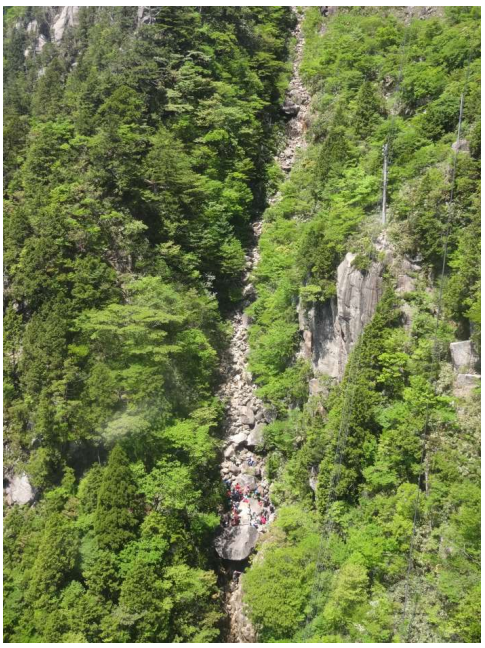
「シロヤシオを見に行こう」がコンセプトの５月例会『釈迦ヶ岳』、下見の結果，Ｂは設定するのが難しいとしてロープウェイ利用の『御在所岳・国見岳』をＣコースとして設定した。参加者は６名。ちょっと膝に不安を抱えるＮさんが加わって新味がでる。あとはいつものＫさん(SL)、Ｏ，Ｍ，Ｙさん。

このロープウェイはなかなかの値打ちものと思う。高度差７８０ ｍ を１２分間で一気に駆け上がる。その内６１ ｍ の日本一の支柱を越える。恐ろしく深い谷、つまり高いところをゴンドラは行く。樹冠を見下ろせるのだ。遠望すればシロヤシオが白く盛り上がって見える。遠見にも間近でも美しい。

まず朝暘台から伊勢湾を望む。知多半島から志摩半島まで意外に小さい。最高点をめざす。スキー場の草を踏んでゆっくり登る。足もとにはハルリンドウ。タテヤマリンドウはその一種のようだ。ハクサンリンドウというのはなくて「白山スーパー林道」だったと洒落てごまかしたつもり。Ｏさんがこれに寒気を訴える。

コースタイム

岩滝 5:40	朝明登山口 9:45	湯ノ山 10:10	朝暘台 10:50
三角（最高）点 11:20	三重・滋賀境(昼食) 11:35	発 12:05	
国見峠 12:35	国見岳 13:30	国見峠 14:10	ＲＷ 14:35
発 15:15	Ａ迎え 16:15	温泉 1700・18:15	岩滝帰着 22:00

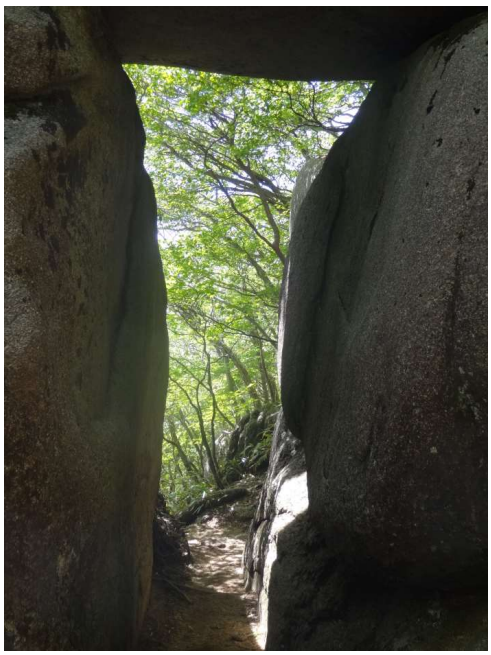


ゴンドラから下を見る。登山道を上がる人の列が小さく見える。鎌ケ岳も遠望できる。急峻な稜線が特徴である。かつて私も登ったことがある。１１６１ｍ。

三角点には１２１１．９５ｍの表示がある。『三重県の山』(山渓)には「西側には三角点よりわずかに高い丘があり、望湖台とよばれる最高点」と書いている。疑問が残る。このあたりには多くの観光客と登山客が集まっている。どちらも若い。名古屋方面からのアクセスがいいからだろうか。私たちのように山頂からの眺望がほしいというものにはありがたい山である。若い人がここを入り口として登山に親しんでほしいと思う。

食事の後は国見岳をめざす。スキー場の手前から左に折れてガレ場を下ると国見峠、裏道コ

ースで藤内壁に続いていく。私たちは左に折れて国見岳をめざす。とても眺望がよく、御在所岳を正面に見る展望台に着く。ここで折り返そうとするが、行き会う若者に尋ねると「T字路に出合ったか」「石門はみたか」と聞かれ，まだ山頂を踏んでいないことに気付き、呼び返す。「先達はあらまほしきものなり」ほんのわずかで、T字路。これは不動谷を下るが、いま通行禁止となっている。石門に着き、屋根を葺いている巨石にも登る。そこからさらにわずかで国見岳山頂（１１７０m）で北側の眺望がよい。Aが歩いていった釈迦ヶ岳（１０９２m）が大きく見えた。



アカヤシオはすでに花を終えてシロヤシオ真っ盛りだった。ベニドウダン、サラサドウダンが華やかにまた渋くひかれる。足もとにはハルリンドウとイワウチワが濃い色で目を引く。

Oさん、「先日の青葉山もこんなものでしたよ。もうちょっとだったのに」と慰められた一日、「登れてよかった」